

NIE活用で講座

県教育庁と推進協、初連携

県立総合教育センター(諸見里明所長)で27日、新聞活用を学ぶ教員研修が開かれ、小学校教諭約40人が参加した。同センターが主催する短期研修講座・小



学校社会科講座の一環で県教育庁と県NIE推進協議会(山内彰会長)が連携した初の取り組み。

言語活動の充実が大きく掲げられた学習指導要領の下、学校現場では出前記者講座や新聞活用に関する校内研修が数多く開かれるなど、教育に新聞を活用するNIE活動が広がりを見せており、参加した教諭らは学校現場での新聞活用の在

小学校教諭向けの研修で、新聞を活用した授業の進め方を紹介するNIEアドバイザーの佐久間洋伊平(小教諭、左から2人目) 27日、沖縄市の県立総合教育センター

り方について熱心に学んでいた。

研修ではNIEアドバイザーの伊平屋村立伊平屋小の佐久間洋教諭が講師を務め、記事と写真から見出しを考えさせる実践例などを紹介した。「身近な記事を選ぶことで意見を持たせやすく、話し合い活動を深めていける。社会性も身に付く」と新聞の意義を強調した。

同センター教科研修班の比嘉均指導主事は「新聞は思考力、判断力、表現力を鍛える教材だと感じた」と話し、諸見里所長は「子どもたちが新聞を読み解く力を身に付ければ、生きる力につながる」と期待した。

竹富町立黒島小の仲村千春教諭(31)は「新聞を授業に使いたくても、やり方が

分からなかった。具体的な実践例を知り、イメージが湧いた。新学期の授業で早速取り組みたい」と感想を述べた。
(大城三太)